

セミナーのご案内

今回配布先を限定しておりますので、関係各位へのご回覧につき、ご高配をお願いいたします。

回				
覧				

高等教育活性化シリーズ 132(通算 404 回)

2008 年 11 月 28 日(金)

カナダの“教育先導型”大学の実践例に学ぶ

“Educational Development”と授業・学習支援策

～ FD から ED へ / 大学教育センターの役割 /

ティーチング・ポートフォリオをどう機能させるのか? ～


ED 概念の必要性・構成要素 / 実効性を持つ教育改善 / 日本における FD の課題と提言
 学習・教育センターの使命と事業展開 / 予算・組織・人財 / 支援プログラム
 授業実績記録の考え方と位置づけ / 効果的な授業改善と教員評価 / TP ワークショップ

講師：Dr. Lynn Taylor / Director, Centre for Learning and Teaching, Dalhousie University
 (リン・テイラー氏 / カナダ・ダルハウジー大学 学習・教育センター長)

通訳：土持ゲーリー法一氏 / 弘前大学 21 世紀教育センター 高等教育研究開発室 教授

企画協力 弘前大学 21 世紀教育センター 高等教育研究開発室

2008 年 11 月 28 日(金) 日本教育会館 会議室 (東京・神保町)

 地域科学研究会
 高等教育情報センター

日時：2008 年 11 月 28 日(金) 10:30～16:00

会場：日本教育会館 会議室 (東京・神保町)

千代田区一ツ橋 2-6-2 03-3230-2833

アクセス：東京メトロ半蔵門線・都営新宿線

「神保町駅」A1 番出口より徒歩 3 分

<http://www.jec.or.jp/koutuu/>

会場の地図及び受講証を送付しますので
必ずご確認ください。

参加費：ご一名(資料代込) 40,000 円(消費税込)

参加費の払い戻しはしませんので、申し込まれた方の
都合が悪いときには代理の方がご出席ください。

FD・SD 及び BD 研修の本格化に伴い、2007 年から
受講・修了証明書を発行しております。

申込方法：参加申込書に所要事項を記入のうえ

FAX または E-mail にてご送付ください。

支払方法：銀行振込・郵便振替・当日払いがあります。

みずほ銀行麹町支店 普通 1159880

三菱東京 UFJ 銀行神田支店 普通 5829767

三井住友銀行麹町支店 普通 7411658

郵便振替 00110-8-81660

全ての口座名 < (株)地域科学研究会 >

ご請求なき場合は振込受領書を領収書に
代えさせていただきます。

申込先：地域科学研究会・高等教育情報センター

東京都千代田区一番町 6-4 ライオンズ第 2-106

Tel: 03(3234)1231 / Fax: 03(3234)4993

URL: <http://www.chiikagaku-k.co.jp/> E-mail: kkj@chiikagaku-k.co.jp

キリトリ線(参加申込みの折は必ずお送りください)

研修会参加申込書

高等教育活性化シリーズ 132

2008 年 月 日

“Educational Development”と授業・学習支援策

勤務先 _____

所在地 〒 _____

TEL _____

FAX _____

連絡部課・担当者 _____

参加者氏名

所属部課役職名

メールアドレス

参加者氏名	所属部課役職名	メールアドレス

通信欄 支払方法(郵便振替・当日払い・銀行振込) 必要書類〔 請求書 見積書 〕

この個人情報は、本セミナーの一連の業務及び今後のご案内に使用させていただきます。

今回のセミナーでは、全学のティーチング・アシスタント(TA)研修やティーチング・ポートフォリオの先駆者であり、教員研修について先進的な試みを行っているカナダ・ダルハウジー大学 学習・教育センター長のリン・テイラー氏を講師に招いて、カナダでの具体的な実践をもとに、

ティーチングやラーニングのほか、専門分野を超えて大学全体でどのように同僚とエンゲージするかの視点から、ED(エデュケーション・ディベロップメント)*の展望ならびに日本での実践課題、ED 推進のための拠点としてのセンターの役割と機能、センターの組織・予算、各種学習・授業支援コンサルテーション、カリキュラム開発、教育組織デザイン等、

ティーチング・ポートフォリオを授業改善と教員評価にどのように繋げていくか、などについてレクチャーしていただきます。

当日は、“インタラクティブな場”のなかで、授業・学習支援策についての課題・問題の解決の手がかりにしていいただければ幸いです。

*カナダでは、過去 40 年余にわたって、伝統的な学術価値への追求、専門的知識の共有、同僚との問題解決といったファカルティ・ディベロップメントの枠組みが、教育実践の展開によって、個々の教員のみならず、カリキュラム開発、学習環境の向上、そして効果的学習および教育経験の支援という広範囲な責任に焦点が移され、エデュケーション・ディベロップメントとして概念化されており、日本における今後のFDの方向性を見極める重要な指標になると考えられます。

時間	講義項目
10:30 ~ 12:00	<p>Educational Development ~カナダにおけるFDの範囲と意義の再定義 ~FDからEDへ/EDの構成要素/日本での実践への提言~</p> <ul style="list-style-type: none"> FDとEDは具体的にどのように違うのか? FDでは何が問題なのか? ED概念化の効果は? 教育改善に実効性を持つために必要なことは何か? 日本におけるFDは、FDとEDどちらか? EDへの再定義の必要性は? 日本でEDを実践する際の注意点は? <p style="text-align: right;">質疑応答</p>
13:00 ~ 14:30	<p>“学習・教育センター”の使命と事業展開~ED推進拠点として何をすべきか? ~教育担当副学長(プロボスト)に直結/予算・組織・人財/教育支援~</p> <ul style="list-style-type: none"> センターのミッション・ビジョン・ドメイン・組織構造・日常業務は? 学習支援・授業支援にはどのようなプログラムがあるのか? ディベロッパー(EDer)養成プログラム、TA研修等はどのように行われているか? 図書館とセンターの関係は? 学習支援での図書館の役割は? 日本においてセンター組織は何をすべきか? <p style="text-align: right;">質疑応答</p>
14:40 ~ 16:00	<p>“授業実績記録”の目的・構成とFDの実際 ~TPの考え方/4つの目的/どう評価するか/TPワークショップ~</p> <ul style="list-style-type: none"> ダルハウジー大学における「授業実績記録」の位置づけは? 授業改善につなげる方法は? TPを普及させるコツは? 教員評価につなげる方法は? 教員評価に用いるべきか? 適切・有効な評価のために整備しなければならない諸条件は? TPの「義務」から「権利」への認識の転換方法は? どのようなワークショップがどのように行われているか? <p style="text-align: right;">質疑応答</p>

リン・テイラー氏のプロフィール

1992年にカナダ・オタワ大学で高等教育分野に関する研究で博士学位(Ph.D.)を授与されたエデュケーション・ディベロップメント(ED)の専門家。現在、ダルハウジー大学学習・教育センターのセンター長。

博士課程では、認知科学論と研究方法論において、とくに人間の問題解決(Human Problem Solving)に関して専門的に研究した。センター長としての職務上の責任には、ファカルティ・ディベロップメント(FD)、後期中等教育に関する大学院教育と指導、そして研究がある。

実践および学術研究(スカラシップ)領域として、高等教育における教授と学習、FD、教授・学習に関する学術研究、高等教育におけるカリキュラム開発、学問の誠実性(Academic Integrity)、そしてアカデミック・リーダーシップなどが含まれる。